

(第3回) 沼田市地域コミュニティのあり方検討委員会 会議録

日 時

令和4年9月30日(金) 19:00～21:09

場 所

テラス沼田5階 Waltzホール(議場)

出席者

委 員 17名

※敬称略

・川端 富夫 ・山田 良美 ・倉澤 由之 ・田中 耕太郎
・松井 弘樹 ・中村 一喜 ・田島 護 ・角田 祐子
・左部 ゆかり ・齋藤 照恵 ・大嶋 康 ・伊藤 智康
・佐藤 亜貴 ・地野 裕一 ・星野 盾 ・信澤 毅
・角田 真由美

アドバイザー 1名

・櫻井 常矢

事務局 4名

・田邊 一樹 ・織田澤 清子 ・見城 俊彦 ・角田 好夫

欠席者

委 員 3名

※敬称略

・高田 式久 ・安原 和宏 ・武井 秀一

次 第

- 1 開 会
- 2 委員長挨拶
- 3 協議事項
 - (1) 前回までのふりかえり
 - (2) 地域コミュニティの現状と課題
 - ア くらしをめぐる課題等発表(団体より)
 - イ 意見交換(グループワーク)
- 4 その他
 - ・次回(第4回)の会議日程

10月26日（水） 19：00～ Waltzホール（議場）

・ 協力団体への謝礼の連絡

5 閉 会

3 協議事項

委員長	次第の3 協議事項（1）『前回までのふりかえり』について、櫻井アドバイザー、よろしくお願いしたい。
アドバイザー	事務局がお配りした資料から、どういったことが言えるのか整理したいと思う。 前回の委員会では、団体活動をめぐる課題ということで、コミュニティのあり方の現状と課題、今どういうことが現状、それから課題としてあるのか、まずは団体活動から見てみようということであった。そして今日は、暮らしに関する発表をしていただくわけであるが、まさに福祉とか、そして地域の暮らしに取り組む事例をお話いただくことになっている。団体の課題については、色々皆さんご意見があり、共有した部分であるが、それぞれのグループの質問番号の3番、これからどういう工夫があり得るのかということだけを眺めると、なんとなく4つくらいに意見が集約できると思ったので、それを整理してきた。 まず一つ目は、「連携」とか「横のつながり」というご意見があった。町内会を越えて連携した方が良いとか、団体同士が連携した方が良いとか、合同で開催した方が良いとか、これはすべて資料の中にあったご意見である。この「連携」とか「横のつながり」という知恵、工夫が一つ出てきた。 それから二つ目は、「有償ボランティア」ということについてのお話しが出てきた。つまり、活動している人に対する報酬とか手当のようなものを出す必要が、これからはあるのではないかというご意見であった。ほかに、子育てママの地域デビューということで、私が関わっているある地域が面白いことを始めた。子育てママで、出産を契機に仕事を離れた方が、少し子育てが落ち着いてきたので、現役で働いてきたときのように何かに取り組みたいということであった。そこで、その地域では、子育てママの皆さんに、昼間の数時間であるが、地域の情報紙・広報誌を作ってもらおうということになった。ただ、普段仕事をしていた人たちであり、地域を知らないのと、地域を知ってもらいながら地域を取材してもらい、そして、それに対して手当、報酬を出していくという有償ボランティアの形をとった。私が言いたいことは、女性の地域参加ということが一つと、もう一つは、地域を知ってもらいながら、再就職したあとも地域の人材として活躍していただき、そして、そうした取組みに対して報酬なり手当を出していくという仕組みである。たまたま今関わっている地域が、幾つかのメリットを重ね合わせて、有償ボランティアに取り組んでいるので、少しだけ紹介させていただいた。有償ボランティアというのは、全国的にも増えてきているので、決して的外れな意見ではないと思う。 続いて3つ目。新たなコミュニケーションツール、スマホとかSNS

	の活用というご意見であり、今までの原案ありきの会議であるならば、スマホで配信し承認してもらうというやり方が多くなってきている。今までは、それを集まってやっていたわけだが、そういうのを止めてコミュニケーションツールを導入してはいかがかとのご意見があった。 最後は、一番多かった意見であるが、年齢や性別を超えた「集いの場」とか「交流の場」、特に面白い意見だなと思ったのが、「地域を越えて集まりましょう」という内容である。先程のコミュニケーションツールの導入という話しとは矛盾するが、顔を合わせて集まらないと知恵は出ないので、団体活動が大変になってきている状況であるが故に、むしろ集まれる場、集いの場が必要となる。今回の皆さんの意見には、「サロン」や「コミセン」という内容があったが、コミュニティセンターを活用していくべきではないのかなどの、コミセンの役割についてもご意見があった。 前回の意見の全体を見渡す中で、4つくらいに集約させていただいた。皆さんも見渡していただいて、これに足される意見があれば、是非ご意見をお願いしたい。 なお、たくさんあったわけではないが、「相談する窓口があったほうが良い」とか「役職の見直し」というご意見があった。先程の4つの意見に比べると数は少なかったが、この「相談する窓口」っていうのも、実は大事なことはないのかなと思った。
委員長	続いて、前回の検討委員会の最後に話しのあった、検討委員会での議論をまとめた報告書の形についてであるが、どのような感じになるのか、その骨格を事務局から提案していただきたいと思う。
事務局	<u>（資料「沼田市地域コミュニティのあり方ビジョン」をもとに、報告書の骨格を提案する）</u>
委員長	質問があれば、挙手にてお願いしたい。 <u>【特になし】</u>
委員長	櫻井アドバイザーから補足等があればお願いしたい。
アドバイザー	補足は特にないが、この前私のほうでお願いしたのはこういった内容であった。我々が議論しているところが、一体何に位置付くのかっていうことを委員の皆さんが分からないと、やりがいがないと思ったのでお願いした。このように整理していただくと、今日議論していることは、ここに入ってくるということが、少し見えると思う。ただ、あくまでも事務局案だと思うので、もう少しこういうことを強調した方がいいのではないかとあれば、構成の段階でも会議の合間などで、意見を言っていただければと思う。そういう意味では、議論しやすくなったというか、見える化してきたので、良かったのではないかと思う。内容については、皆さんからも色々ご意見をいただきながら、考えていきたいと思っている。

委員長	続いて、協議事項（２）『地域コミュニティの現状と課題』についてであるが、本日は、佐藤委員、伊藤委員、松井委員の３名から、ゆうゆう・うちだ、地域包括支援センター、社会福祉協議会の、それぞれの団体の主な活動、また「地域のくらしの課題、くらしの中で感じている問題点」「今後解決したいこと、さらに取り組みたいこと」を発表していただく予定である。お手元の資料をご覧くださいながら、お聞きいただきたい。 それでは、まず初めに、ゆうゆう・うちだから、佐藤委員よろしくお願ひしたい。
佐藤委員	（くらしをめぐる課題等発表：ゆうゆう・うちだ） ■別紙資料による
委員長	何か伺いたいことがあれば、挙手にてお願ひしたい。 【特になし】 ラインを使っている地域が１箇所あると言っていたが、差し支えなければ、どの地域か教えていただきたい。
佐藤委員	上沼須町である。
委員長	櫻井アドバイザーから何かあればお願ひしたい。
アドバイザー	私がアドバイザーをやっている地域では、小学校区単位で生活支援コーディネーターを置いている。要するに、中学校区単位では広すぎる、とても見えないということが素朴にある。佐藤委員も大変だとは思いますが、限界とか難しさとか、何かエピソードなど、こういうことがあったらいいなということがあれば、一言いただきたい。
佐藤委員	中学校区単位が広すぎて限界っていうのはあって、１３町あったところを２つに分けたが、それでもやはり限界がある。町のことを町で解決したいという思いがある地域も多いので、８町とか５町とかに括られても、共感しにくい部分があり、合同で何かしようというのが難しい。町の方からも、中学校区単位という括りは大変というか、進めていく中で難しいという声が上がっている。
アドバイザー	佐藤委員のように取り組める人が、これからのコミュニティではつなぎ役として必要である。イギリスなどこういう雰囲気であり、年中つないでいる人がある。イギリスの地方都市は、日本よりも高齢化率が深刻であるが、結構みんな元気に暮らしている。それは、つないでいる人があるからである。生活支援コーディネーターという人たちが、これからの地域社会に必要ではないかなと、この委員会で強調しても良いと思う。
委員長	次に、地域包括支援センターから、伊藤委員よろしくお願ひしたい。
伊藤委員	（くらしをめぐる課題等発表：地域包括支援センター）

	■別紙資料による
委員長	何か伺いたいことがあれば、挙手にてお願いしたい。 【特になし】
委員長	櫻井アドバイザーから何かあればお願いしたい。
アドバイザー	今日は地域の暮らしの課題ってことであるが、最前線のお話をいただいたと思っている。先程の話と重複するが、デマンドバス、移動販売を利用できない、しないという話しの関連で、実際に買い物して、両手いっぱい袋を持って、タクシーやバスで帰ってきても、家の玄関までの坂が上れない。つまり、その間の介助者がいないと、このバスは意味を持たないという話しである。先程のお互いさまの話しであると思うが、やはり寄り添う人たち、担い手のほうの問題を市をあげて考えていく段階にきていると思う。前にお話ししたかもしれないが、民生委員との話しとの関連で、私がアドバイザーをしているある市役所では、社会福祉協議会と一緒にあって、見守り隊という組織を市内で100箇所以上編成している。それは、民生委員では足りないということで、先程話しに出た自宅までの道のりの介助とか、最近公民館に顔を出さない高齢者宅に行ったりする。見守り隊は全員65歳以上であるが、これはわざとそうしており、まだまだ元気であるし、逆に共感も呼ぶため、とてもいいのかなと思ったりもする。前にもお話ししたが、今までの仕組みではとても支えきれず、バスや移動販売に寄り添う人間も、現状のスタッフでは足りない。改めて、お互いさまの仕組みって凄く貴重だと思ったし、そういったものを本腰入れて作っていかないと、間に合わない状況にあるのかなと常々思っている。この委員会の中で、そういったことを率直に提案していても良いのではと感じた。
委員長	最後に、社会福祉協議会から、松井委員よろしくお願いしたい。
松井委員	〈くらしをめぐる課題等発表：社会福祉協議会〉 ■別紙資料による
委員長	何か伺いたいことがあれば、挙手にてお願いしたい。 【特になし】
委員長	櫻井アドバイザーから何かあればお願いしたい。
アドバイザー	3団体の発表は、内容的に重なるところがあり、市役所内の横の連携とかどうなっているのか気になったところであるが、この後共有していければと思う。支援する側の横のつながりが大事なのかなと、話を聞きながら思ったところである。
委員長	続いて、先程の団体からの発表を踏まえ、これからグループワークを行う。5つのグループになっているので、それぞれのグループ内で話し合ってください、その結果を発表していただくまでを考えている。 ここからの進行は、櫻井アドバイザーにお願いしたい。

アドバイザー	<u>協議事項（２）『地域コミュニティの現状と課題』</u> <u>イ 意見交換（グループワーク）</u> ※５つのグループに分かれて、意見交換を行った。 意見交換の際に付箋に書き出した意見を分類の上、別紙に掲載。 １ 暮らしをめぐる課題等の発表から、<u>特に印象に残ったこと</u> <u>気づいたこと</u> ２ 地域の暮らしをめぐる課題・・・ （福祉、環境（土地、生活）、教育、災害、文化、他） <u>現在、地域で取り組んでいることは？</u> 自治会、各種団体、NPO等としての取組み <u>特に頑張っている取組み：◎</u> <u>この先、不安な取組み：△</u> テーブルによって、できている分野のばらつきが凄く、福祉系は全然書けないグループとか、文化系がやけに強いグループとかある。集まった人の情報によって、地域の課題は左右してしまうので、常に言っていることだが、なるべく多くの人を集めて意見交換しないと、本当の地域の姿は見えてこない。一人一人の持っている情報は限られているので、そういうことは大事にしたいと思う。 ３ 地域の暮らしをめぐる課題の解決に向けて <u>どのような対策・工夫がありうるか</u> <u>現在の取り組みを活かすために</u> <u>より強化する・充実させるために</u>
グループ 1	<u>【グループ発表】</u> ほかの地域の人に、あそこではこういうことをやっているんだよとか、例えば、お年寄りの方がこういうことをやっているとか伝えてみると、うちでもやってみようかなとかそういう気持ちになるの

	で、まずはほかの地域に色々やっていることを伝える。何かいいことをやっても、ただ自分たちが何かをやっているということではなくて、みんなでそれをやっているっていうことを教えてあげる。 それから、色々な団体をつなげてくれる、必ずそれを二つの団体、三つの団体、色々な方をつなげてくれるコーディネーター的な方を中心に置いて統括していないため、うまく連携ができていない。そのため、コーディネーターを中心に置いて、横のつながりをもてたらいいのかなという感じがした。 あともう一つは、おじいちゃんおばあちゃんが子どもを見てくれるというのが凄く多いが、逆におじいちゃんおばあちゃんを子どもたちが見てあげるような、逆側からの素直な目でおじいちゃんおばあちゃんに触れあって、そこを見守るっていう形でやったらどうだろうっていう意見が出た。
グループ 2	【グループ発表】 一つは、交流を深めることが大切なので、その具体的な例として、あちこちにベンチを置くという意見が出た。前橋では「幸せの黄色いベンチ」を用意していて、ベンチがあると人が寄ってきて、交流の場になるという情報があったので参考にしてもよいと思う。 もう一つは、活動を周知するという事で、お互いの団体の情報を共有しながら、地域の人たちにも情報発信をして、チラシを配るなり、とにかくみんなにもう一度、こういうことが地域にあるんだよっていうことを知ってもらったほうが、先のことを考えた時に、いいのではないかとの意見であった。 もう一つは、お年寄りの相互関係である。そのために、何でも好きなことに参加できるよう「元気なベテラン会」を作ったり、ベテランの人たちが寄って参加できる「御用聞き隊」を作るっていう意見が出た。
グループ 3	【グループ発表】 ラインの話しが先程あったが、やはり SNS、ネットを使うのがいいのではないかとというのが一点目。 二点目は、活動の詳細を理解してもらうのがいいのではないかとということで、方法については色々あると思うが、内容を理解してもらうことが大事ではないかということであった。 三点目は、報酬、手当の有償化ということで、この三つをあげさせていただいた。
グループ 4	【グループ発表】 文化と教育と環境が話しに出た。 まず文化であるが、みんなが集まりやすくする、楽しいものにす

	る、趣味の集まりのようにするとの意見が出た。あとは、条件だとかそういう決まりを低くし、バーベキューや食事会などをして、みんなで楽しく集まれたらいいなという意見が出た。 それから伝承の関係で教育にしたが、保存会とか体協の活動が停滞しているが、まず子どもたちや若い人に知ってもらいたい。そのためにも、3世代交流会などを定期的を開催するのが良いのではないかと意見が出た。 あとは、環境であるが、有害鳥獣の駆除とか用水の管理とか、そういったことを結構地区でやっているが、そういったものの人材確保が凄く大変なので、人材育成にも補助金を出したり、参加者に手当を出したりと、お金で支援することが必要なのかなという意見であった。
グループ 5	【グループ発表】 従来の行政区を越えたつながりっていうものが必要ではないかということと、人を集める方法では、多世代の交流ということで、子どもからお年寄りまでが、目標を一つにして楽しめるような交流が必要とのことであった。 あとは、成功事例を共有するということで、どのように人を集めたのか、このような工夫をしたなどというような、成功事例を共有するのがまず必要であるとの話しでまとまった。
アドバイザー	他地区の取り組みを知り、ノウハウを共有するだけでも、それぞれの地域が前に進むのかなと感じた。 あとは、「コーディネート」、「つなぐ」、「人の集い」とか、そういったものをどのように作るのかということである。全体としてつなぐという社会的な機能が、日本は凄く弱かったりする。なぜ弱いのかとよく質問されるが、たぶん官治の国だからだと思う。行政がすべてお世話してきたので、官が面倒を見るから民がつながらなくてもなんとなく暮らしが成り立ってきたということが、日本社会のつなぐっていう機能の弱さにつながっているのかなと勝手に想像している。でも、そういうものが必要になってきているのではないかということが、皆さんの中で共通項として出てきたのかなと思っている。
委員長	本日予定された協議事項については、これで全て終了した。事務局にお返しする。